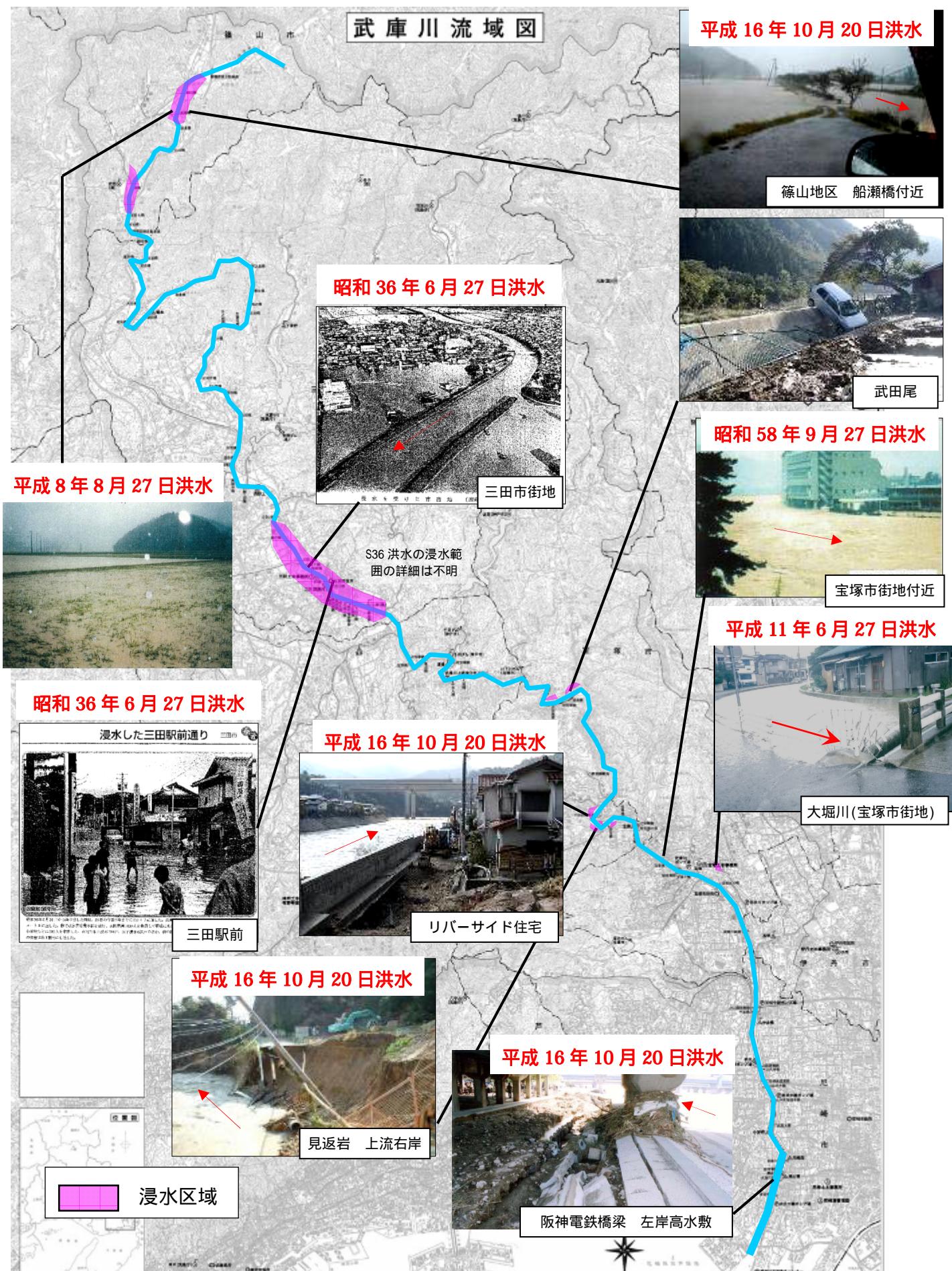


【武庫川における過去の被害状況写真】



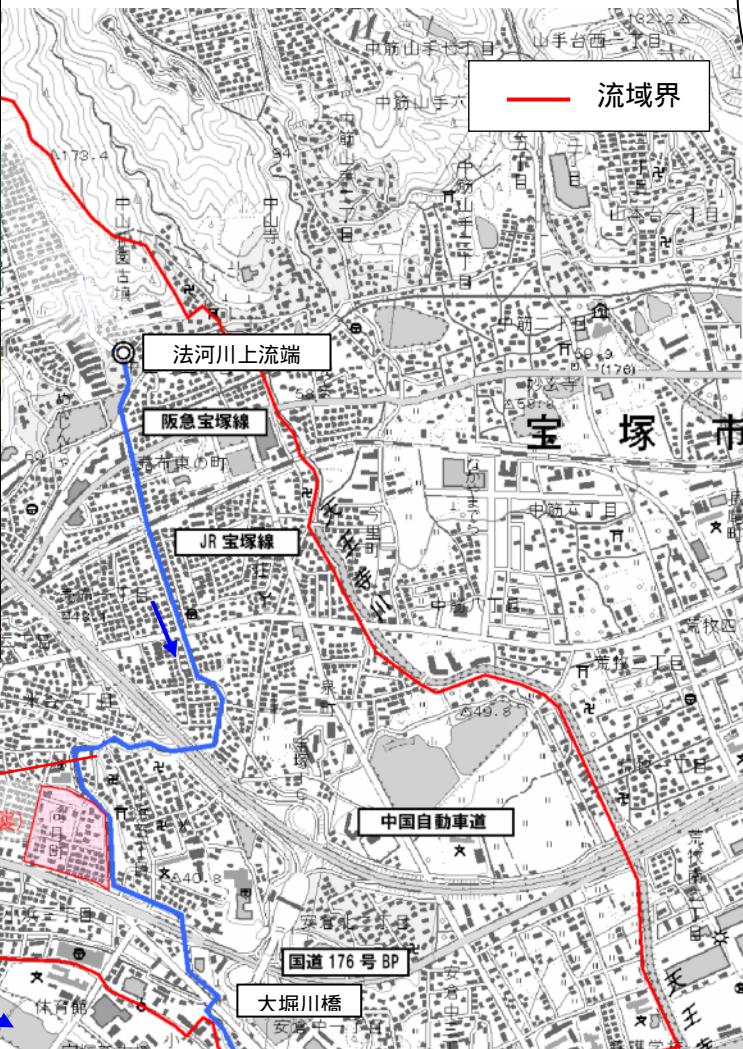
【武庫川（支川大堀川）における過去の被害状況写真】

平成 9 年 7 月 13 日洪水

溢水状況



溢水状況



平成 11 年 6 月 27 日洪水

溢水状況



浸水状況



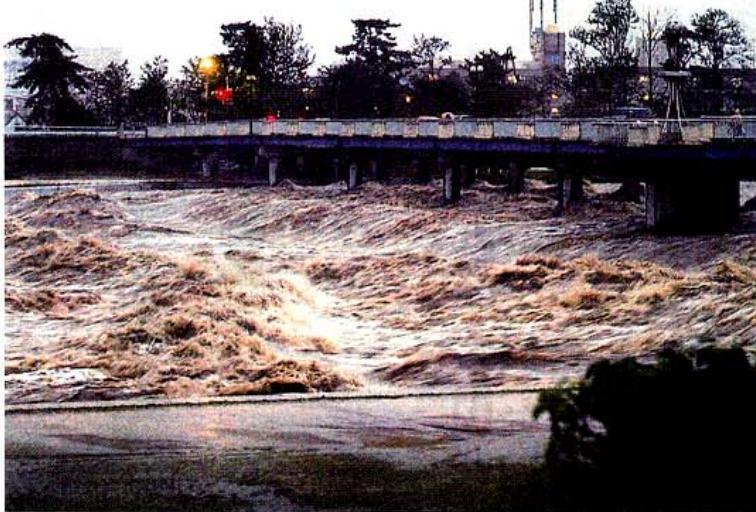
【浸水状況（昭和36年6月27日洪水）】



神戸新聞 S36 6 27

武庫川増水 住民ら避難

台風23号



【西宮市】武庫川が午後七時、小曾根町で四・九尺（警戒水位四・四尺）を記録した。尼崎市本事務所は「少なくとも過去十一年間で最高」。

市は、名塩木之元の通称「リバーサイド」の八十一世帯、計百九十七人に避難指示を発令。午後七時までに三十九世帯、百十二人が塩瀬中学校に避難した。森永伸三郎さん（全）は「午後三時半ころから家の前の水位が上がり、堤防を乗り越えて水が流れ込んできた。三十年前から住んでいるが、こんなに水がさが増えたのは初めて。家がどうな

●酒流となる武庫川

勢いは夕方から急激に強

まった。午後七時、尼崎

市の武庫川河川敷（激流

で崩れた道路）この後

もう1車線も川の中、消

えた。午後8時40分、西

宮市生瀬武庫川町

大型で強い台風23号は二十日夕から夜にかけ、阪神間でも猛威を振るった。暴雨で武庫川や猪名川が警戒水位を超えて増水、西宮、宝塚、川西市などで計約三百二十世帯、計七百二十人に避難指示がなされ、住民らが近くの学校などに避難した（同日午後八時現在）。各地で川沿いの道路が崩れ、つり橋が流失するなど被害が続出。今夏から続いた台風の中でも、とびわけ大きなつめ跡を残した。

【西宮市】武庫川が午

後七時、小曾根町で四・

九尺（警戒水位四・四尺）を

記録した。尼崎市本事務

所は「少なくとも過去十

一年間で最高」。

市は、名塩木之元の通

称「リバーサイド」の八

十一世帯、計百九十七人

に避難指示を発令。午後

七時までに三十九世帯、

百十二人が塩瀬中学校に避

難した。森永伸三郎さん

（全）は「午後三時半ころ

から家の前の水位が上がり

り、堤防を乗り越えて水

が流れ込んできた。三十

年前から住んでいるが、

こんなに水がさが増えた

のは初めて。家がどうな

るなんぞ。こんな日の運

転は怖い」。

【宝塚市】午後二時ごろ、武田尾温泉の旅館街に通じる古道が冠水。しかし左岸にある旅館「紅葉館」は、近くの水門や防潮門扉三十三ヶ所も一時閉鎖した。

【尼崎市】午後八時半

流されたため、従業員ら

六人が一時孤立した。

町の市民センターに自主

避難所が設置された。

市は市内の全小中学校

に避難場所を設置。約七

十人が避難した。

【尼崎市】昼前から武

庫之莊などで市民が自

由で避難を始めた。

午後七時ま

で十四世帯が地域の小

学校に一時避難した。潮

江で住宅一軒が床下浸水

し、JR高架付近など六

カ所で道路冠水した。

潮位の上昇に伴い午後

六時には、左門戸川にか

かる国道2号の左門橋を

一時通行止めにして防潮

堤が床上浸水し、十四人

が自主避難した。午後六



【西宮市】武庫川が午後七時、小曾根町で四・九尺（警戒水位四・四尺）を記録した。尼崎市本事務所は「少なくとも過去十一年間で最高」。

（1面参照）

【西宮市】武庫川が午後七時、小曾根町で四・九尺（警戒水位四・四尺）を記録した。尼崎市本事務所は「少なくとも過去十一年間で最高」。

（1面参照）

【西宮市】武庫川が午後七時、小曾根町で四・九尺（警戒水位四・四尺）を記録した。尼崎市本事務所は「少なくとも過去十一年間で最高」。

（1面参照）

【西宮市】武庫川が午後七時、小曾根町で四・九尺（警戒水位四・四尺）を記録した。尼崎市本事務所は「少なくとも過去十一年間で最高」。

（1面参照）

過去10年で最高の水位

道路崩れ、橋流失

近約三百世帯が停電

生駒武庫川町では、武庫川沿いの市道のガードレールが約百㍍にわたって崩れ落ち、通行止めとなつた。

兩度町では午後八時半

ごろ、走行中のタクシーに風で飛んできたロッカ

ーが激突し後部ガラスが割れた。運転手（六〇）は空からロッカーが飛んで来るなんて。こんな日の運

転は怖い」。

【宝塚市】午後二時ごろ、武田尾温泉の旅館街に通じる古道が冠水。しかし左岸にある旅館「紅葉館」は、近くの水門や防潮門扉三十三ヶ所も一時閉鎖した。

【尼崎市】午後八時半

流されたため、従業員ら

六人が一時孤立した。

町の市民センターに自主

避難所が設置された。

市は市内の全小中学校

に避難場所を設置。約七

十人が避難した。

【尼崎市】昼前から武

庫之莊などで市民が自

由で避難を始めた。

午後七時ま

で十四世帯が地域の小

学校に一時避難した。潮

江で住宅一軒が床下浸水

し、JR高架付近など六

カ所で道路冠水した。

潮位の上昇に伴い午後

六時には、左門戸川にか

かる国道2号の左門橋を

一時通行止めにして防潮

堤が床上浸水し、十四人

が自主避難した。午後六

時には、左門戸川にか

かる国道2号の左門橋を

一時通行止めにして防潮

堤が床上浸水し、十四人

が自主避難した。午後六

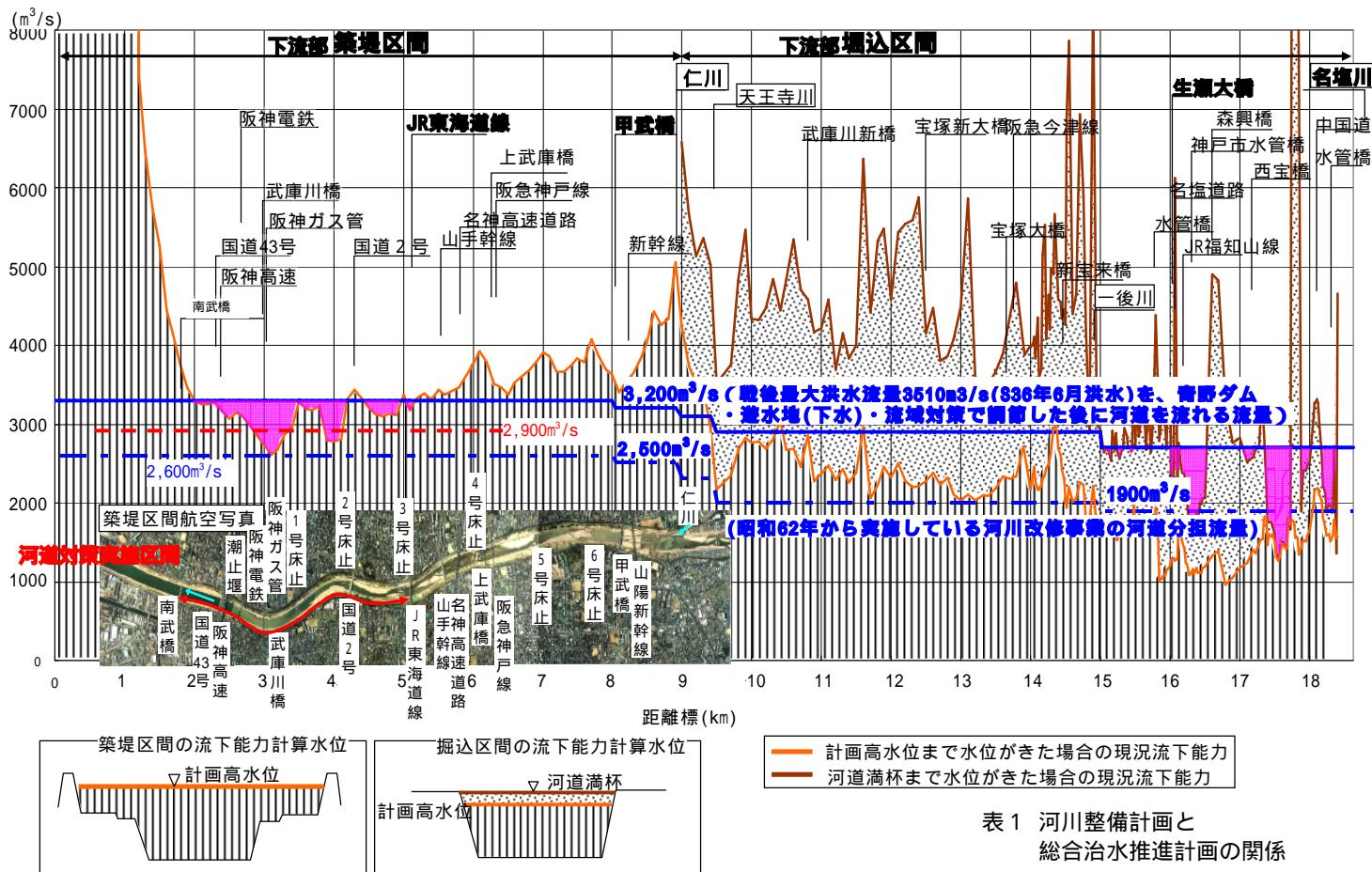


図3 現況流下能力と河道への配分流量

(4) 流域対策・減災対策は県・市が協力して実施

「流域対策」や「減災対策」は、流域市の協力を得て進める必要があるため、県及び流城市で構成する「武庫川流域総合治水推進協議会(仮称)」を設置し、別途「武庫川流域総合治水推進計画(仮称)」を策定します。表1

表1 河川整備計画と総合治水推進計画の関係

	河川整備計画 兵庫県	総合治水 推進計画 推進協議会
内容	河川法に基づき今後20年間で実施する具体的な整備内容を記載	河川整備計画と整合を図り、県・流城市が協力して進める内容を記載
策定主体	兵庫県	推進協議会(兵庫県、流城市)

2 利水対策

流水の正常な機能の維持

合理的な水利用の促進に努め、より豊かな流量の確保を目指します。加えて、健全な水循環を確保するため、流域水循環の把握に努めるとともに、森林・農地等の保全、透水性舗装の整備等に取り組みます。

3 環境対策

(1) 動植物の生活環境の保全・再生

計画段階から生物多様性の保全に向けた対応方針を明らかにするため、全国的にも初めての取り組みとして、「環境に関する2つの原則」を設けました。この原則を適用して、生物環境に与える影響を可能な限り回避・低減または代替できる環境保全措置を講じることにより、武庫川を特徴づける多種多様な動植物が生息・生育できる豊かな自然環境の保全・再生に努めます。

「武庫川水系に生息・生育する生物及びその生活環境の持続に関する2つの原則」

原則1：流域内で種の絶滅を招かない

原則2：流域内に残る優れた「生物の生活空間」の総量を維持する

(2) 天然アユが遡上する川づくり
アユの生息環境を改善するため、関係者や地域住民の適切な役割分担のもと、移動の連続性の向上や生息場所の確保等、実施可能なものから取り組みます。

(3) 良好的な景観の保全・創出
沿川景観を一体のものとして捉えるとともに、川が本来有する自然景観を基調として、武庫川らしい景観の保全・創出に努めます。

(4) 水質の向上
自然浄化機能を有する水生植物の再生等を通じて、更なる水の「質」の向上を目指します。あわせて、関係機関と連携した「わかりやすい水質指標」による調査の実施を検討します。

4 流域連携

「地域共有の財産」である武庫川を守り育てるため、「参画と協働」による武庫川づくりを基本として、地域住民・NPO・事業者・大学等の研究機関・流城市・県が、適切な役割分担のもと流域連携を進めます。

5 河川整備計画のフォローアップ（計画の着実な推進）

表2 河川整備計画の実施概要

PDCAサイクルの考え方に基づいた進行管理
フォローアップ委員会の設置
地域住民等との情報の共有化

項目	河川整備計画			(参考) 河川整備 基本方針
	内容		甲武橋地点 流量配分	
整備目標	戦後最大の洪水である昭和36年6月27日洪水から沿川住民の生命や財産を守ることを基本とする。	整備の考え方 ¹ (整備期間20年間)	3,510m ³ /s	4,690m ³ /s
河川対策	下流部築堤区間(河口～JR東海道線橋梁手前)	前半	後半	
	低水路拡幅	前半での完成を目指す	+100 ²	
	高水敷掘削	前半での完成を目指す	+200 ²	
	河床掘削	下流から順次掘削	+400 ²	2,500
	下流部掘込区間(仁川合流点～名塩川合流点) 溢水対策(護岸整備、パラペット等) 〔当面は、生瀬大橋上流の未整備区間にいて、 河道拡幅、河床掘削を実施。〕	未整備区間の整備後、 浸水対策を行う		3,200m ³ /s
	中上流部及び支川 河道拡幅、河床掘削、溢水対策(パラペット等)	順次整備する		3,700m ³ /s
	下流部築堤区間の堤防強化(南武橋～仁川合流点) ⁴ 計画高水位以下の洪水に対する浸透対策、侵食対策	前半での完成を目指す		
	新規遊水地の整備 武庫川上流浄化センター内の用地の一部を転用し、遊水地を整備。	前半での完成を目指す	+20 ²	220
	青野ダムの活用 予備放流による洪水調節容量を現在よりも40万m ³ 拡大。 (洪水調節容量560万m ³ 600万m ³)	予備放流開始雨量の設定等について試行した後、前期の運用を目指す	+40 ²	280m ³ /s
流域対策	学校、公園、ため池を利用した貯留施設等を整備。 付加的な流出抑制効果が期待できる様々な流出制対策の推進。	順次整備する	30m ³ /s	80m ³ /s
減災対策	4項目を柱として推進する。 (1)水害リスクに対する認識の向上(知る) (2)情報提供体制の充実と水防体制の強化(守る) (3)的確な避難のための啓発(逃げる) (4)水害に備えるまちづくりと水害からの復旧の備え(備える)			ソト対策を中心とした「減災対策」を実施する。

1 整備予定期をわかりやすく示すために、参考に整備の考え方を記載しました。整備にあたっては関係機関等との調整が必要となるため、整備時期が変更になることがあります。

2 対策毎の整備効果をわかりやすく示すために、参考に概ねの整備効果量を記載しました。

3 は甲武橋地点の上流であり、 は堤防の質的改良であるため、甲武橋地点の流量配分の内訳にはならない対策です。

4 計画高水位以上の洪水に対して堤防を決壊しにくくするための堤防強化については、計画高水位以下の洪水に対する浸透・侵食対策が完了した後に、可能なものから実施します。

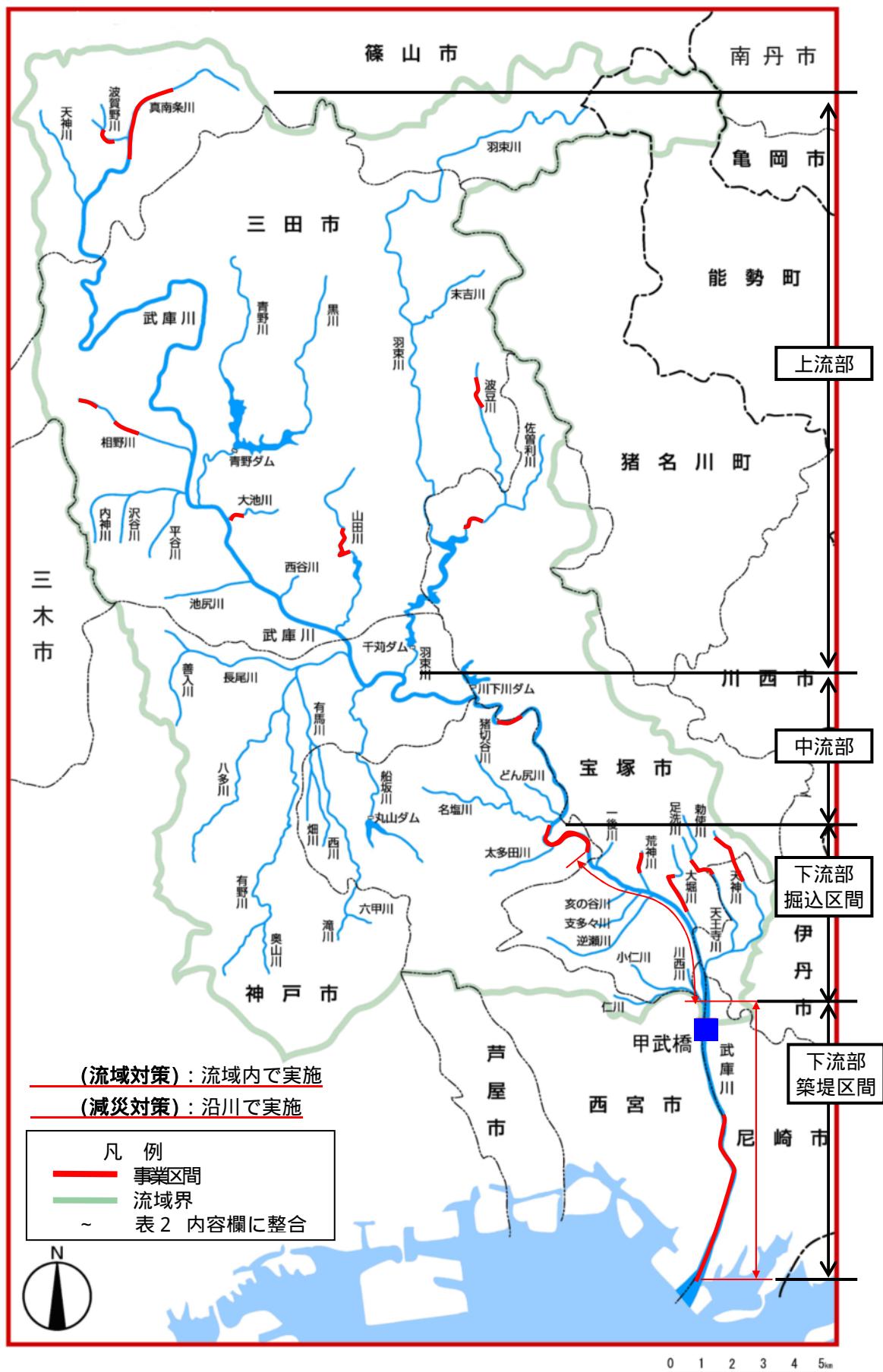


図4 河川整備計画の事業区間の位置図